

- 52.同様にかれら以前の者も、使徒がかれらにやって来る度に、「魔術師か、または気違いだ。」と言った。
- 53.かれらはそれを遺訓として継承して来たのか。いや、かれらは法外の民である。
- 54.それで、かれらを避けて去れ。あなたがたは（かれらの行いに対して）咎めはないのである。
- 55.だが訓戒しなさい。訓戒は信者たちを益する。
- 56.ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため。
- 57.われはかれらにどんな糧も求めず、また扶養されることも求めない。
- 58.本当にアッラーこそは、糧を授けられる御方、堅固なる偉力の主であられる。
- 59.悪行の徒の授かり分（罰）は、かれらの仲間の授かり分（罰）と同じであろう。だからそう（われを）急き立てなくてもいい。
- 60.信仰しない者に災いあれ。約束の日がかれらに必ずやって来る。

## SURA 52.山章 [アッ・トール]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.かの（啓示の）山にかけて（誓う）。
- 2.整然と書き記された啓典にかけて、
- 3.巻かれていない羊皮紙に、
- 4.不断に詣でられる聖殿にかけて、
- 5.高く掲げられた天蓋にかけて、
- 6.漲り(温?)れる大洋にかけて（誓う）。
- 7.本当に主の懲罰は必ず下る。
- 8.それは避け得ない。
- 9.その日、天は大いにゆらゆらと揺れ、
- 10.また山々は揺ぎ動くであろう。
- 11.その日、（真理を）虚偽であるとした者に災いあれ。
- 12.虚しい事に戯れていた者たちに。
- 13.かれらが（もの凄い力で）地獄の火の中に突き落されるその日、
- 14.（こう言われよう。）「これこそは、あなたがたが虚偽であるとしていた地獄の業火である。

- 15.それでも魔術なのか。それともあなたがたは、見えないのか。
- 16.あなたがたはそこで焼かれるがいい。あなたがたがそれを耐え忍んでも、忍ばなくても同じこと。あなたがたが行ったことに、報いられるだけである。」
- 17.主を畏れた者たちは必ず楽園の歓びの中に置き、
- 18.主がかれらに与えるものに歓喜し、また主が獄火の懲罰からかれらを救われたことを喜ぶ。
- 19.(かれらには言われよう。 ) 「楽しんで食べ、且つ飲め。これもあなたがたの(善い)行いのためである」。
- 20.かれらは並べられたソファーに寄りかかり、われは美しい目の乙女たちをかれらの配偶者にするであろう。
- 21.信仰する者たち、またかれらに従った信心深い子孫の者たち、われは、それらの者を(楽園において)一緒にする。かれらの凡ての行為に対し、少しも(報奨を)軽減しないであろう。誰もがその稼ぎにたいし、報酬を受ける。
- 22.またわれは果物、肉、その外かれらの望むものを与えよう。
- 23.かれらはそこで栗いに杯を交そう。その時にも虚しい話にふけることなく、乱暴も犯さない。
- 24.かれらの周には、秘められた真珠のような子供が傳いて巡る。
- 25.かれらは栗いに近寄って、尋ね合い、
- 26.言っていた。「以前、わたしたちは家族の間にもいつも気を遣っていた。
- 27.だがアッラーは、わたしたちに御恵・を与えられ、熱風の懲罰から御救い下された。
- 28.以前からわたしたちは、かれに祈っていたのです。本当にかれは恵・厚く、慈悲深き御方であられる」
- 29.さあ、かれらに訓戒しなさい。主の恩恵によって、あなたは占い師でも気違いでもない。
- 30.またかれらは、「只の詩人だ。かれの運勢が逆転するのを待とう」と言う。
- 31.言ってやるがいい。「待っているがいい。わたしもあなたがたと共に待っていよう。」
- 32.一体かれらの貧しい理解力がこう命じたのか、それともかれらは法外な民なのか。
- 33.または、「かれ(ムハンマド)がこれを偽作したのである。」と言うのか。いや、かれらは信じてはいないのである。
- 34.もしかれらの言葉が真実なら、これと同じ御告げをもってこさせるがよい。
- 35.かれらは無から創られたのではないか。それともかれら自身が創造者なのか。

- 36.それともかれらが、天と地を創造したのか。いや、かれらにはしっかりした信仰がないのである。
- 37.それともかれらは、あなたの主の様々な宝物を持っているのか。または（事物の）管理者なのか。
- 38.それともかれらには梯子があつて、それで（天に登り、その秘密を）聞くことが出来るのか。それなら聞いたという者に、明確な証拠を持って来させるがよい。
- 39.それともあなたがたには息子があつて、かれには娘がある（だけ）というのか。
- 40.それともあなたが、かれらに報酬を求め、それでかれらは負債の重荷を負っているというのか。
- 41.それとも幽玄界のことがすっかり分つていて、それを書き留めているというのか。
- 42.それとも（あなたに対して）策を巡らす積もりか。だが背信者たちこそ、策謀にかかるであろう。
- 43.それともかれらは、アッラー以外に神があるというのか。アッラーに讃えあれ、かれは配するもの（邪神）の上にと高くおられる。
- 44.仮令天の一角が（かれらの上に）落ちるのを見ても、かれらは、「積・重なった雲です。」と言うであろう。
- 45.かれらは、（恐れのために）そこに昏倒する（審判の）日に会うまで、放って置け。
- 46.その日かれらの策謀は、何の益もなく、結局かれらは助けられないであろう。
- 47.本当に不義な行いの者には、この外にも懲罰がある。だが、かれらの多くは気付かない。
- 48.それで主の裁きを耐え忍んで待て。本当にわれはあなたがたを見守っている。そしてあなたが立ち上がる時は、主を讃えなさい。
- 49.夜中に、また星々が退く時にも、かれを讃えなさい。

## SURA 53.星章 [アン・ナジュム]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.沈・ゆく星にかけて（誓う）。
- 2.あなたがたの同僚は、迷っているのではなく、また間違っているのでもない。
- 3.また（自分の）望むことを言っているのでもない。
- 4.それはかれに啓示された、御告げに外ならない。
- 5.ならびない偉力の持主が、かれに教えたのは、
- 6.優れた知力の持主である。真っ直ぐに立って、